



Natural Gas Group

天然ガスグループ



常務執行役員
天然ガスグループCEO

西澤 淳

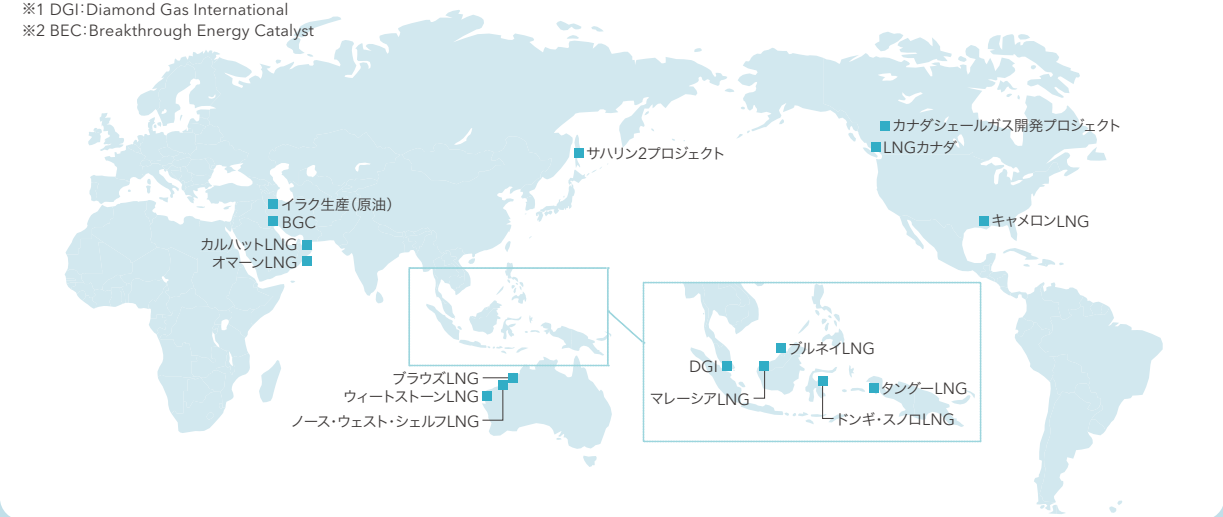
事業概要

- アジア・パシフィック地域および北米を中心とした天然ガス・LNG事業
- LNGの新規プロジェクト開発、マーケティングおよびトレーディング事業
- カーボンニュートラル社会に向けたLNGバリューチェーンの低炭素化

当グループの強み

- 世界中で展開する優良なLNG事業ポートフォリオ
- 顧客・プロジェクトパートナー・産ガス国との強固な関係
- シンガポールの販売子会社(DGI^{※1})を中心とした販売力
- CCUS、カーボンクレジット事業やBEC^{※2}など、カーボンニュートラル社会実現に向けた多様な取り組み

※1 DGI: Diamond Gas International
※2 BEC: Breakthrough Energy Catalyst



Map labels: イラク生産(原油) BGC, カルハットLNG, オマーンLNG, サハリン2プロジェクト, カナダシェールガス開発プロジェクト, LNGカナダ, キヤメロンLNG, プラウスLNG, ウィートストーンLNG, ノース・ウェスト・シェールLNG, DGI, ブルネイLNG, マレーシアLNG, タンゲールLNG, ドンギ・スノロLNG

マテリアリティと事業の関連性	
該当マテリアリティ	マテリアリティとの関連性／アクションプラン
 脱炭素社会への貢献	低・脱炭素化対応 - LNG生産・輸送オペレーション効率化 - LNGプロジェクトにおけるグリーン電源導入 - CCUSプロジェクトの推進 - カーボンクレジット事業開発
 持続可能で安定的な社会と暮らしの実現	LNGの安定供給 - 既存事業の安定操業 - 建設中プロジェクトの確実な立ち上げ - 販売力をテコにした拡張・新規事業の立ち上げ・参画による供給力の強化
 イノベーションを通じた社会課題の解決	技術イノベーションの促進を通じた脱炭素社会実現への貢献 - BECを通じた脱炭素事業の社会実装支援 - Direct Air Capture事業の推進

環境認識	
リスク	機会
- 地政学リスクや景気動向、低・脱炭素の潮流を背景とした投資不足に伴う資源価格ボラティリティの上昇 - 業界への規制強化等による天然ガスの市場競争力低下 - 長期的な需要の不確実性	- 新興国を中心とした経済成長に伴う天然ガス需要の増加 - 石炭・石油からの転換、電化が困難なセクターの熱源、再生可能エネルギー間欠性の補完など、底堅い天然ガス需要 - ブルー水素・ブルーアンモニア等、次世代エネルギー原料としての天然ガス活用

中期経営戦略2024
における戦略

- 既存事業のさらなる基盤強化やタンゲールLNG拡張・LNGカナダの着実な立ち上げ
- 販売力をテコとした競争力ある拡張・新規プロジェクトの実行を通じたポートフォリオの強化
- カーボンニュートラル社会の実現に向けた、LNGサプライチェーンの低・脱炭素化、およびCCUS・カーボンクレジット事業の推進

中期経営戦略2024進捗

インドネシア タンゲールLNGプロジェクト

当社はオペレーターであるbp社と推進するタンゲールLNGプロジェクトにおいて、同プロジェクト参画企業と拡張プロジェクトを実行するとともに、CCUS事業も検討しています。本事業は拡張により生産能力が年産760万トンから1,140万トンへ増加、またCCUS事業によりプロジェクトから排出されるCO₂を累計約2,500万トン回収し、既存ガス田に圧入・貯留することで、プロジェクト排出量を約半減させると共に、天然ガスの生産効率向上・増産を行うものです。本プロジェクトを通じ、当社はLNG供給力の強化とともにサプライチェーンの低炭素化を目指しています。



既存液化設備2系列および建設工事の拡張系列、LNGタンク、棧橋等

主要な成長ドライバー

当社は、1960年代よりLNG事業に取り組み、資本参画するLNGプロジェクトを増やしてきました。現在は全世界で13のプロジェクトに参画し、LNG持分生産能力は11.81百万トンに達しています。建設中のタンゲールLNG拡張・LNGカナダは、それぞれ2023年・2020年代中ごろの生産開始を見込んでおり、2020年代中ごろにはLNG持分生産能力は14.29百万トンに達する見込みです。今後も、競争力ある新規プロジェクトへの参画を通じてLNG持分生産能力の拡大を図ります。

LNG持分生産能力の成長見通し

